

環濠の桜の蕾も膨らみ、春の訪れを告げる本日ここに、平成29年度滋賀県立大学大学院学位授与式を挙行し、博士号取得者6名と、修士号取得者102名の栄誉を称えることは、本学にとりまして誠に大きな慶びであります。

博士号、並びに、修士号の学位を取得された皆さん、おめでとうございます。滋賀県立大学を代表して、心よりお祝い申し上げます。皆さんが、この良き日を迎えられたのは、皆さん一人一人の努力の賜物であることは勿論ですが、それとともに、皆さんを支えてこられた保護者やご家族、友人の方々の支援があつてのことだと思ひます。保護者、ご家族の皆様を始め、関係の方々には、これまでのご支援に敬意を表しますとともに、心よりお祝い申し上げます。

さて、博士号とは、研究テーマを自ら見付け出して設定し、それを研究する方法を考えて、結論を導き出し、公表する能力を持った独立した研究者であることを証明するものです。また、修士号は、ある専門分野において、深い知識と技術、並びに学識を身に付けていることを証明するものです。

皆さんは、滋賀県立大学大学院において、それぞれの専門分野を探求し、極めることにより、豊かな学識と高度の研究能力を備えられたわけです。それぞれの分野のスペシャリストとなった皆さんは、その専門性を活かして社会への貢献が期待されています。その期待に答えるために、大学院で獲得した専門性を、いろいろな形で活かして頂きたいと思ひます。一方、皆さんが専門とされた分野は、大学院を終了後もさらに進歩し続けます。皆さんは、これからも引き続き自らの専門性を維持発展させるため、弛まぬ研鑽を積まれることを願っています。

また、これからの社会で出会うテーマは、一つの専門性のみでは解決することが困難なものばかりです。即ち、他の分野についての理解が必要不可欠です。そのためには、自ら異分野についても学ぶことが重要です。是非、大学院で極めた専門性に拘ることなく、自分自身のさらなる成長を目指して、第二、第三の専門分野を作ってください。

皆さんが活躍される将来の社会は、いろいろな大きな変化が予想されています。その一つに、アメリカの未来学者であり人工知能の世界的権威であるレイモンド・カーツワイル博士が提唱している「シンギュラリティ」があります。これは、技術的特異点を意味して、現在活発に研究開発されている人工知能が発達して、コンピューターが人間の脳、即ち、人間の知性を超えることを指しています。そして、その結果、人間の生活に大きな変化が起こると予想されています。この技術的特異点に到達するのは2045年、今から27年後と言われています。正に、皆さんが社会の第一線で活躍されている時代です。

コンピューターが意識を持ち、機械が人間の脳を超える時代に向かって進んでいる今の時代において、留意すべき大切なことは、正義感と倫理観だと考えます。機械は人類の平和と幸せを実現するための手段であり、目的ではありません。これらのことを念頭に、正義感と倫理観について、十分考えていく必要があります。

パーソナルコンピューターの父と呼ばれるアメリカのアラン・ケイ博士は、「Future is not to predict, but to invent.」と言っています。この言葉を私なりに解釈すると、「未来は占うものではなく、自ら作り出すものだ」と思います。皆さんが未来に向かって歩まれるこれからの時代に、多岐に渡る多くの課題と出会うことでしょう。AI技術の発展や、グローバル化の進展などにより引き起こされる社会構造や日常生活の劇的な変化を受け入れながら、人々が真の豊かさを実感できる持続可能で平和な社会を実現できる人類の知恵が求められています。その時、時代に流されることなく、自ら時代を作ることを心がけるように期待しています。これまでの滋賀県立大学での学びをベースとして、これからも研鑽を積んで、切磋琢磨することにより、知恵と勇気を持って将来の社会に向かって進んで頂きたいと思います。これまでの学生生活で獲得した実践する力を大いに発揮してください。

皆さんは、滋賀県立大学で取得された学位に誇りを持って、大学院修了後は、社会をキャンパスに学び続けるとともに、社会からの期待に応えられることを願っています。そして、他の人ではなし得ない独創性と創造性を発揮し、自信を持ってこれからの人生を歩んでください。

皆さんの学位の取得とこれからの前途を祝して、式辞といたします。

平成30年3月21日

滋賀県立大学 学長 廣川 能嗣